

# 大上地域にも子どもが親しめる身近な図書コーナーを

どうか。また、図書館や分室には児童図書コーナーが、各地区センター等には図書コーナーがあるが、大上地域にはそのような施設がない。身近にある大上会館や自治会館に図書コーナーを併設する考えはないか。

答 公立の子ども図書館は、学習機会を提供するとともに、主体的に行動する能力を育成する場として極めて重要な施設と考える。本市では図書館や分室に児童図書コーナーを設け環境づくりに努めるとともに、

家庭での読書習慣を身につけ、情操豊かに育つように貸出業務の充実や読書普及事業を積極的に進めていきたいと考えており、現在、子ども図書館を設置する考えはない。また、図書サービスは、常に施設を開庁し貸し出しする体制が必要のため、大上会館や自治会館でその体制を確保することは難しいと考える。

(他に「市庁舎の不備不備など」の改善を望む、「バス停留所等の改善整備を望む」を質問)

## 市民が望む魅力ある将来の綾瀬市像の実現を求む

### 市民が望む魅力ある将来の綾瀬市像の実現を求む

綾風会 渡部 泰

問 市が行ってきた市民意識調査アンケートで、毎回要望の高い事項をどのように施策に反映するのかわかる。一番目に、交通機関、いわゆる

る交通網、鉄道や新交通システムの設置は今後どのように考えているのか。二番目に、総合病院等の市内設置で医療体制の確立が急務と考えるが、その取り組みは。三番目に、市の将来都市像は、農村型か都市型か、

または併用型か。四番目に、騒音に悩まされている厚木基地は、民間航空機との共有化を図り、地域住民がその利便を受けられると共に、その波及効果により市の発展につながるよう取り組むべきと思うがどうか。

答 新交通システムは、三市の協議会で研究を行ってきたが、バブル経済崩壊により事業の推進は困難となっている。総合病院は、県保健医療計画の病床数の規制により設置は不可能だが、綾瀬厚生病院に総合的な診療科目を備えるための支援を考えている。市の将来都市像は、「緑と文化の薫るふれあいのまち」のビジョンに基づき、環境と共生した田園都市型のまちづくりを進めたい。

## 保育園の待機児童解消に向けての抜本的な対策は

### 保育園の待機児童解消に向けての抜本的な対策は

日本共産党 松本 春男

問 不況によるリストラや給料の引き下げを受け、パート労働を含めた就労希望者が増えている状況から、保育園に子どもの入所を希望する保護者が増えている。市内の認可保育園は、公立一園と私立四園があるが、受け入れ児童数が大きく不足しており、二年待っても入所できないといった例も聞いている。一年中で一番待機児童数の少ない時期となる四月一日時点で四十人程度、多い時期で百人程度も待機しているようだが、その実態は。また、民間保育園の新増設計画の動向と待機児童解消に向けた市の抜本的な対策はどうか。

答 不況によるリストラや給料の引き下げを受け、パート労働を含めた就労希望者が増えている状況から、保育園に子どもの入所を希望する保護者が増えている。市内の認可保育園は、公立一園と私立四園があるが、受け入れ児童数が大きく不足しており、二年待っても入所できないといった例も聞いている。一年中で一番待機児童数の少ない時期となる四月一日時点で四十人程度、多い時期で百人程度も待機しているようだが、その実態は。また、民間保育園の新増設計画の動向と待機児童解消に向けた市の抜本的な対策はどうか。

## 治安悪化の抑止力として不在がちな交番の強化を

### 治安悪化の抑止力として不在がちな交番の強化を

新政法会 吉川 重夫

問 人口の増加や商業施設の整備に伴い、交通量の増加や犯罪の発生等、治安の悪化が懸念されている。こうした状況の中、治安を確保し犯罪を防ぐには、抑止力となる警察署の設置や交番の強化をなによりも優先すべきと考える。警察署について、特に厚木基地を抱えている特殊事情からも設置が望ましいが、長年の要望も実現には至ってなく、安全で住みよい環境を早急に確保するため、当面、交番に警察官を増員し、不在がちとなる現在の状況を改善するよう要望すべきと考える。また、地域のパトロールを強化するよう働きかけるべきと考えるがどうか。

答 警察署の設置要望は県に対し昭和六十三年度から行っているが、予算や人員の問題から設置はもとより、交番の不在解消についても難しいとのことである。交番への市独自の人員配置が可能か県等と協議したが、これも困難との結論であった。市の対応策としては、市民の不安を少しでも解消するため、平成十五年度から警察官OBを防犯相談員として委嘱し、防犯相談をはじめ、防犯知識の啓発等に現場投入も含め努めていくとともに、安全・安心の市民生活の実現に向けて、引き続き警察署の誘致、交番等の充実について、県と県警に対し要望・要請していく。

# 東名綾瀬インターチェンジの設置に住民合意は得たか

日本共産党 彦坂 弘明

問 市は、東名高速道路綾瀬インターチェンジの誘致を目指している。市が実施した市民アンケートの結果について市では、インターが必要」と回答した市民が七割を超えていると議会や広報紙に発表した。しかし、調査したところ、「必要」は五八・

二%「必要ない」は二四%「どちらとも言えない」は一七・三%であり、市の発表した数字と異なっているがなぜか。また、アンケートの記述回答でも環境や交通問題を心配する声が多いが、これらの問題はどのような。インターチェンジ設置に関する情報公開と住民合意についてどうなっているか。

答 市の発表したアンケート結果は、インターチェンジの設置が「必要」との回答と「必要ない」との回答を総数として捉えたものであり、その比率が、七〇・八対二九・二となることから、「七割が必要」と発表されたものである。環境、交通問題については環境アセスメントの実施、総合交通計画の見直しの中で、幹線道路のネットワーク化等、さまざまな視点から県及び関係機関と調整し対処していく。また、住民合意は、既にできているものと考えているが、市民との共同作品との認識のもと、広報あやせ、ホームページ、パンフレット等により周知していく。

## 詳しい内容は『会議録』で

市議会報あやせでは、定例会や臨時会の概要をお知らせしています。市議会では、本会議の発言内容を記録した「会議録」を作成しています。会議録は議会事務局のほか、市立図書館、市役所内情報公開コーナーに備えてありますので、ご利用ください。

なお、三月定例会の会議録は、六月上旬にできる予定です。



桜満開の4月7日、市内の小学校で入学式が行われ、天台小学校では109人のピカピカの1年生が誕生しました。新しいランドセルを背負って、緊張気味の記念撮影！